

純国産メンマプロジェクト

NPO 法人 農都会議（ちば里山・バイオマス協議会）

純国産メンマプロジェクト千葉県取り組み



2018年4月、幼竹収穫の様子



加工の様子



ちば里山・バイオマス協議会の活動



2019年3月、FOODEX(幕張メッセ)
千葉県ブースにて紹介



2019年5月、純国産メンマプロジェクト
全国大会・広島

地域資源活用の一環として、食するには大きくなりすぎたタケノコ(幼竹)を、約1mから1.2mくらいで収穫し、地元の漬物業者、道の駅運営会社との協力により、国産メンマを製造販売するプロジェクトです。

千葉県産業振興センターの農商工連携指導を受けながら2018年、2019年と進め、2019年7月には商業販売を行いました。

2020年には約1万食を販売して好評を得ています。2021年には原料のタケノコを約20t分加工しました。

市原市は中小企業地域資源活用促進法に基づき、「小湊鉄道が結ぶ市原の魅力」を、ふるさと名物応援宣言をしていますが、この中で事業名「小湊鉄道でつなぐ、新・竹取物語」を採択しています。また、純国産メンマプロジェクトは、全国規模で推進され、2019年の林業白書P140にも掲載されました。

冬の竹林整備に加え、幼竹の収穫は春の竹林整備としても位置付けられ地域の活動の推進につながっています。

千葉県市原市、大多喜町、長柄町、長南町の孟宗竹の幼竹収穫は、4月下旬から5月上旬です。そのあと2か月間かけて加工します。

地域連携体として「中房総さとやま活用協議会」を設立し、愛称も「なかふさ」と決め、更なる商品開発を目指しています。全国組織とも連携しています。

ちば里山・バイオマス協議会（NPO 法人 農都会議 会員）

〒290-0056 千葉県市原市五井2437-2 ホマレヤビル3F

090-4135-3060 mail@chibakyo.net http://chibakyo.net/